



2023年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年5月15日

上場会社名 朝日インテック株式会社 上場取引所 東・名
 コード番号 7747 URL <http://www.asahi-intecc.co.jp/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)宮田昌彦
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長 (氏名)伊藤瑞穂 (TEL) (0561) 48-5551
 四半期報告書提出予定日 2023年5月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年6月期第3四半期の連結業績(2022年7月1日～2023年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		のれん償却額等を除く営業利益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第3四半期	69,774	23.1	17,851	35.2	16,418	37.0	15,952	24.5	11,985	35.2
2022年6月期第3四半期	56,684	26.5	13,199	29.4	11,984	18.8	12,810	23.2	8,861	20.2

(注) 包括利益 2023年6月期第3四半期 12,094百万円 (0.1%) 2022年6月期第3四半期 12,082百万円 (38.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第3四半期	44.12	—
2022年6月期第3四半期	32.66	32.65

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第3四半期	162,990	129,997	78.6
2022年6月期	155,127	121,130	77.0

(参考) 自己資本 2023年6月期第3四半期 128,171百万円 2022年6月期 119,459百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	—	0.00	—	11.99	11.99
2023年6月期	—	0.00	—	—	—
2023年6月期(予想)	—	—	—	13.71	13.71

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年6月期の連結業績予想(2022年7月1日～2023年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		のれん償却額等を除く営業利益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
通期	89,339	14.9	19,163	13.4	17,433	14.4	17,423	6.7	12,405	14.3	45.67

(注) 1 のれん償却額等を除く営業利益=営業利益+のれん償却額等

2 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

23年6月期3Q	271,633,600株	22年6月期	271,633,600株
23年6月期3Q	7,878株	22年6月期	7,878株
23年6月期3Q	271,625,722株	22年6月期3Q	271,316,947株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9
(収益認識関係)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、低侵襲治療を究極的に追究することで、医師や患者様のQOLの向上を目指し、2026年6月期において連結売上高1,000億円を超えることを目標に、新中期経営計画「ASAHI Going Beyond 1000」にて、以下の4つの基本方針を定め、10年後を見据えて更に長期的に成長するための事業ポートフォリオの構築を進めております。

- ①グローバル市場の戦略的な開拓と患部・治療領域の拡大
- ②グローバルニッチ市場における新規事業の創出
- ③グローバル展開に最適な研究開発・生産体制の構築
- ④持続的成長に向けた経営基盤の確立

事業ポートフォリオの構築として、「グローバル市場の戦略的な開拓と患部・治療領域の拡大」を引き続き推進することで、これまでの基本戦略の集大成を図り、既存事業の収益基盤を強化いたします。また、将来に向けた成長への投資を継続することにより「グローバルニッチ市場における新規事業の創出」を実現し、グローバル市場における当社のプレゼンスの強化と企業価値の一層の向上を目指します。その成長戦略を支えるためのビジネス基盤として、「グローバル展開に最適な研究開発・生産体制の構築」を進めるとともに、「持続的成長に向けた経営基盤の確立」を図ってまいります。

その実現に向けた施策として、当第3四半期連結累計期間では、①Penumbra Inc. (米国)の末梢血管用血栓吸引デバイスの日本市場における独占販売に向けた基本合意書を締結、②DK MEDTECH(蘇州)有限公司の「DK Score冠動脈スコアリングバルーン拡張カテーテル」の中国市場での独占販売契約を締結、③レイクR&D株式会社の株式取得、④医療分野用途を主としたGSRセンサ(注)の製造・販売を行うことを目的とした株式会社マグネア設立を決定、⑤当社グループとして初の「統合報告書2022」を発行、などを実施いたしました。今後におきましても、中期経営計画に基づく成長戦略を着実に進めていくことにより、企業価値の向上を目指してまいります。

上記の様な環境の中、当社グループの当第3四半期連結累計期間における売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響により縮小した市場規模が前年同期比で回復傾向にあることや、為替が円安に推移したこと、市場ニーズの増加などにより、海外売上高が大幅に増加し、697億74百万円(前年同期比23.1%増)となりました。

売上総利益は、売上高の増加に伴い、462億86百万円(同22.8%増)となりました。

営業利益は、売上高の増加や海外市場での販促活動強化に伴う営業関係費用の増加、開発強化のための研究開発費の増加などにより、販売費及び一般管理費が増加したものの、164億18百万円(同37.0%増)となりました。

経常利益は、為替差損が増加したものの、159億52百万円(同24.5%増)となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、段階取得に係る差益6億15百万円が減少するものの、セブ工場の台風被害に伴う災害保険金収入3億5百万円の計上やセブ工場被災による損失の減少などにより、119億85百万円(同35.2%増)となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間における外国為替レート実績は、下記となります。

- 1米ドル=137.51円(前年同期113.31円、比21.4%増)
- 1ユーロ=141.95円(前年同期130.10円、比9.1%増)
- 1中国元=19.81円(前年同期17.69円、比12.0%増)
- 1タイバツ=3.87円(前年同期3.42円、比13.2%増)

(注)「GSRセンサ」：磁性ワイヤにGHzパルスを通電させた時の表皮効果によって、磁化が変化し、誘導電圧が発生する現象(GSR原理)を利用したセンサであり、従来の磁気センサと比較して、超小型・超高感度を可能にした磁気センサのことです。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(メディカル事業)

メディカル事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により縮小した市場規模が前年同期比で回復傾向にあることや、為替が円安に推移したこと、海外を中心とした市場ニーズの増加などにより、売上高は増加いたしました。

国内市場においては、消化器分野の売上が増加したものの、医療償還価格の下落や、OEM取引の減少などにより、売上高は減少いたしました。

海外市場においては、循環器系領域が、全地域において、PCIガイドワイヤーや貫通カテーテルを中心に大変順調に推移したことや、非循環器系領域についても、米国やアジア地域において、OEM事業などを中心に全領域が順調に推移し、売上高は増加いたしました。

以上の結果、売上高は610億75百万円(前年同期比22.3%増)となりました。

また、セグメント利益は、145億58百万円(同30.0%増)となりました。

(デバイス事業)

デバイス事業は、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復による市場ニーズの増加や、為替が円安に推移したことなどにより、医療部材を中心に売上高は大幅に増加いたしました。

医療部材については、国内市場においては、売上高が横ばいに推移いたしましたが、海外市場においては、米国企業向け循環器系超音波カテーテル部材及び循環器系検査用カテーテル部材の取引が増加したことなどから、売上高は増加いたしました。

産業部材につきましては、国内市場において建築関連取引が減少したものの、海外市場においてレジャー関連取引が好調に推移したことなどから、売上高は横ばいに推移いたしました。

以上の結果、売上高は、86億99百万円(前年同期比29.1%増)となりました。

また、セグメント利益は、外部売上高及びセグメント間売上高の増加により、50億53百万円(同33.2%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、総資産額が1,629億90百万円となり、前連結会計年度末に比べ78億63百万円増加しております。

主な要因は、現金及び預金が25億15百万円、商品及び製品が10億83百万円、有形固定資産その他が39億1百万円それぞれ増加したことによるものであります。

負債につきましては、負債合計額が329億93百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億3百万円減少しております。主な要因は、短期借入金が16億49百万円増加した一方、支払手形及び買掛金が2億37百万円、流動負債その他が18億47百万円、長期借入金が2億73百万円それぞれ減少したことによるものであります。

純資産につきましては、純資産合計額が1,299億97百万円となり、前連結会計年度末に比べ88億66百万円増加しております。主な要因は、利益剰余金が87億28百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の売上高・営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益は、為替が円安に推移したことなどから、当初予想に比べて好調に推移いたしましたが、通期の連結業績予想の見通しにつきましては、中国や東欧などの代理店販売地域において先方の在庫調整が発生し売上が変動する可能性があること、人的投資の重要性などからインフレに伴う特別手当などの費用の増加が見込まれること、未使用経費について第4四半期連結会計期間に使用可能性があることなどを複合的に考慮し、2022年8月12日に公表いたしました業績予想からの修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,321	34,836
受取手形及び売掛金	13,987	14,949
電子記録債権	1,607	1,678
有価証券	—	2,000
商品及び製品	7,294	8,378
仕掛品	12,493	13,030
原材料及び貯蔵品	7,168	7,352
その他	4,933	5,197
貸倒引当金	△196	△218
流動資産合計	79,609	87,204
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	21,698	21,581
その他（純額）	23,863	27,764
有形固定資産合計	45,561	49,346
無形固定資産		
のれん	8,200	7,786
その他	11,157	10,300
無形固定資産合計	19,358	18,087
投資その他の資産	10,598	8,352
固定資産合計	75,517	75,786
資産合計	155,127	162,990

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,180	2,943
電子記録債務	700	811
短期借入金	5,815	7,465
未払法人税等	2,927	1,947
賞与引当金	1,371	1,140
その他	6,766	4,918
流動負債合計	20,761	19,227
固定負債		
長期借入金	6,364	6,090
役員退職慰労引当金	20	19
退職給付に係る負債	2,033	2,216
その他	4,816	5,439
固定負債合計	13,234	13,766
負債合計	33,996	32,993
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,860	18,860
資本剰余金	21,727	21,727
利益剰余金	69,018	77,746
自己株式	△7	△7
株主資本合計	109,599	118,327
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,872	1,927
為替換算調整勘定	7,898	7,827
退職給付に係る調整累計額	89	89
その他の包括利益累計額合計	9,860	9,844
非支配株主持分	1,670	1,825
純資産合計	121,130	129,997
負債純資産合計	155,127	162,990

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)
売上高	56,684	69,774
売上原価	18,990	23,488
売上総利益	37,694	46,286
販売費及び一般管理費	25,709	29,868
営業利益	11,984	16,418
営業外収益		
受取利息	13	21
受取配当金	30	36
為替差益	872	—
その他	218	105
営業外収益合計	1,135	163
営業外費用		
支払利息	101	187
為替差損	—	311
その他	207	130
営業外費用合計	309	629
経常利益	12,810	15,952
特別利益		
段階取得に係る差益	615	—
災害保険金	—	305
特別利益合計	615	305
特別損失		
投資有価証券評価損	125	186
災害による損失	477	—
その他	—	1
特別損失合計	603	187
税金等調整前四半期純利益	12,823	16,070
法人税、住民税及び事業税	3,363	3,714
法人税等調整額	490	245
法人税等合計	3,854	3,959
四半期純利益	8,968	12,110
非支配株主に帰属する四半期純利益	107	125
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,861	11,985

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益	8,968	12,110
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	255	55
為替換算調整勘定	2,846	△71
退職給付に係る調整額	11	△0
その他の包括利益合計	3,113	△16
四半期包括利益	12,082	12,094
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11,975	11,949
非支配株主に係る四半期包括利益	107	145

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(米国会計基準ASU第2016-02「リース」の適用)

米国会計基準を採用している一部の在外連結子会社において、米国会計基準ASU第2016-02「リース」を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。これにより、当該連結子会社における借手のリース取引については、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することといたしました。当該会計基準の適用にあたっては、経過措置で認められている、当該会計基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の有形固定資産の「その他」が362百万円、流動負債の「その他」が85百万円、固定負債の「その他」が276百万円それぞれ増加しております。

なお、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響に関しましては、前連結会計年度の有価証券報告書の追加情報に記載した内容から、重要な変更はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	メディカル事業	デバイス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	49,948	6,736	56,684	—	56,684
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	10,294	10,294	△10,294	—
計	49,948	17,031	66,979	△10,294	56,684
セグメント利益	11,196	3,792	14,988	△3,004	11,984

(注) 1 セグメント利益の調整額△3,004百万円は、セグメント間取引消去と各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	メディカル事業	デバイス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	61,075	8,699	69,774	—	69,774
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	11,273	11,273	△11,273	—
計	61,075	19,972	81,047	△11,273	69,774
セグメント利益	14,558	5,053	19,611	△3,193	16,418

(注) 1 セグメント利益の調整額△3,193百万円は、セグメント間取引消去と各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(1) 種類別の内訳

前第3四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント		
	メディカル事業	デバイス事業	計
循環器	37,579	—	37,579
非循環器	8,181	—	8,181
OEM	4,186	—	4,186
医療部材	—	3,437	3,437
産業部材	—	3,299	3,299
合計	49,948	6,736	56,684

当第3四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント		
	メディカル事業	デバイス事業	計
循環器	46,369	—	46,369
非循環器	9,278	—	9,278
OEM	5,427	—	5,427
医療部材	—	5,345	5,345
産業部材	—	3,353	3,353
合計	61,075	8,699	69,774

(2) 地域別の内訳

前第3四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		
	メディカル事業	デバイス事業	計
日本	10,856	2,303	13,159
北米	10,074	1,995	12,069
欧州	11,504	342	11,846
中国	11,369	199	11,568
その他	6,143	1,896	8,039
合計	49,948	6,736	56,684

当第3四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		
	メディカル事業	デバイス事業	計
日本	10,120	2,127	12,247
北米	13,321	3,161	16,482
欧州	13,972	292	14,264
中国	15,236	361	15,598
その他	8,425	2,756	11,182
合計	61,075	8,699	69,774

(重要な後発事象)

該当事項はありません。